

二〇二五年二月二七日

地蔵在す千年櫓洞温し
高枝を飛び移りつつ轉れる
番犬の寝ぼけ眼や春うらら

うつぎ

さつき

さつき

二〇二五年二月二六日

手話なれど表情豊かあたたかし

明日香

二〇二五年二月二五日

車椅子降りて十歩の青き踏む
畦に腰おろし憩ふや犬ふぐり
湧水の疎水たばしる里の春
春眠や終点告げるアナウンス

はく子

三刀

よう子

さつき

二〇二五年二月二四日

洗濯物叩き取り込む黄砂かな
床の春唐の名墨眼福に
手をかざすパワースポット伊勢詣
萌え初めし蓬匂ふと手から手へ
おちこちに野焼きの煙谷戸動く
歩こう会到達地点は梅の丘

あさこ

菜々

なつき

うつぎ

よう子

はく子

二〇二五年二月二三日

関節のゆるぶ気のする四温かな
おみ足に老婆のすがる寝釈迦かな

明日香

明日香

二〇二五年二月二二日

為人惜しまれ葬儀温かし
恋猫の声アルトからテノールへ
立ち話尽きることなく路地日永
小流れに渡す丸太や犬ふぐり
茎立ちのひと畝残る麓田かな
御廟所の扉の開かれて轉れる

せいじ

満天

さつき

豆狸

明日香

なつき

二〇二五年二月二二日

喜びが降ってくるやう春日燦
切干の真向き背きに乾きけり
ゼッケンをつけて園児ら野に遊ぶ
轉りや世界遺産の森めぐる

明日香

よし女

さつき

せいじ

毎日句会みのる選・二〇二五年三月一日